

科学研究費助成事業 研究成果報告書

令和 5 年 6 月 13 日現在

機関番号：37113

研究種目：挑戦的研究(萌芽)

研究期間：2017～2022

課題番号：17K18531

研究課題名(和文) 冷戦終焉とユーラシアの境界・環境・社会：グローバルな比較と理論化に向けた学際研究

研究課題名(英文) The End of the Cold War and the Eurasian Border, Environment and Society: Inter-Disciplinary Study toward Developing the Global Comparative Theory

研究代表者

花松 泰倫 (Hanamatsu, Yasunori)

九州国際大学・法学部・教授

研究者番号：50533197

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 4,900,000円

研究成果の概要(和文)：本研究はユーラシア各地の「国境(national border)」と境域(borderland)における「環境」および「社会」の三者間の相互関係を学際的・分野横断的に分析することを試みた。自然的境界に沿って引かれたナショナルボーダー(国境)を越境する形で社会的および政治的活動が行われるがゆえに透過性の高いボーダーになりがちな地域がある一方で、自然(環境)ボーダー、社会ボーダーとナショナルボーダーをすべて一致させようとするウェストファリア的なボーダーなど多様な形態があり、マルチスケールな主体による境域社会への影響をどう捉えるかが今後の課題になることが確認された。

研究成果の学術的意義や社会的意義

ロシア=ウクライナ戦争を契機として、世界の境界地域における国境と人の移動を含む社会のボーダー、また環境要因を含んだ地理的ボーダーとの関係性が問いなおされつつある。本研究はユーラシア大陸における既存の境域で見られる三者間の関係の分析と整理を通して、今後の国境のあり方、境域における権力と社会、自然の相互作用に関する議論にささやかながら示唆を与えることができるであろう。

研究成果の概要(英文)：This study attempted to analyze relationship between the “national border” and the “environment” and “society” in Eurasia border region from the interdisciplinary and cross-disciplinary perspectives. While there are areas that tend to be highly “permeable” borders because social and political activities are carried out across national borders drawn along natural or geographical boundaries, there are other various forms of border area that try to match all administrative, social and national borders. It was confirmed that how to perceive the impact of multi-scale actors on the borderline society will be an issue for the future.

研究分野：国境学

キーワード：ボーダー 境域 行政的境界 地理的境界 社会的境界

1. 研究開始当初の背景

冷戦終結と旧ソ連諸国の独立、社会主義ブロックの崩壊に伴い、人為的に形成されていた境界の解体・再編を通じて、境界の実態（国境および境域社会）とその表象（人間の認識）自然環境の相克が顕著になっている。その結果、境界地域は、境界の現場でのローカルな実態、越境する生活圏や経済圏、主権国家による国境政策、グローバルな政治・経済の流れ、そして、流域や生態域といった自然環境要因という異なる地理的スケールの「ずれ」が顕著に現れる地域となっている。

境域にはグローバリゼーションや主権国家のロジックでは捉えることができない、独特な境域としての場所（place）のロジックがあり、それが人間社会や自然利用のあり方にも反映している。しかし、先行研究ではこの境域の環境と社会の問題について十分な検討がされてこなかった。いわゆる「越境環境問題」についての先行研究は主権国家中心のトップダウン型の「ガバナンス」論に陥りがちであり、境界と境域社会の問題、スケールの「ずれ」の問題を咀嚼しきれていない。また、主権国家の中央による境域への政策・認識・表象と境域での人々の生活や移動の実態は往々にして齟齬をきたす。このように、冷戦後ユーラシアにおける行政境界（国境など）・自然境界（環境圏）・境域社会（生活圏・経済圏）の「ずれ」はある程度認識されつつも、それらを統合的に分析、整理し、記述する作業はなされていない。

2. 研究の目的

本研究では、文系・理系の多様なディシプリンを背景とする研究者が、冷戦時代からポスト冷戦期にかけてのユーラシアにおける境界と環境・社会の変容プロセスとその内容について学際的・分野横断的な研究・議論を行うことを目的とする。また、境域における複数の地理的スケールの重複と「ずれ」、その相互関係（スケールの政治）が、境界そのもの、境域の社会、そして境域の（しばしば境界を跨ぐ）環境にどのような影響を与えているのかということについてユーラシアを単位として考え、各人のフィールドの場所のロジックから出発しつつも、「タコツボ的」な地域研究を超越し、「境界・環境・社会」をめぐるユーラシアというスケールでの問題の共通性と各フィールドの位相的關係について包括的な知見を得ることを目指す。

とくに、このような様々な「ずれ」に着目し、境域という場所のロジックに立脚した境界と環境・社会の問題を、ボトムアップで捉え直し、境域の現場でこの「ずれ」がどのように顕在化し、それをいかに克服しようとしているのかという点に着目する。また、場所や多様性に立脚した境域変容の研究によって、静的・画一的な空間像を脱構築し、グローバルなスケールで比較検証可能な新たな地域概念・空間像を構築することを目的とする。

3. 研究の方法

ナショナルボーダー、環境ボーダー、社会ボーダーの三者間の「ずれ」の実態と背景を明らかにするため、中露国境地域、中央アジア諸国、インド・アッサム地方などの南アジア地域、ベトナム・ホーチミンなど東南アジア地域、対馬、五島、稚内など日本国内の国境地域における現地調査、リモートセンシング作業のための衛星画像データ分析などを行った。

さらに、新型コロナウイルス感染拡大の影響により海外での現地調査が困難となった後は、日本国内の都道府県境および市町村境を対象に、行政的境界(border)とそれを取り巻く境域(borderland)、自然環境や地理的な側面から見た境界、および人やモノの移動、交流に関する社会的境界の三者関係を明らかにすべく、岐阜県中津川市および長野県南木曾町の県境地域で現地調査を行った。

4. 研究成果

(1) ユーラシアにおける国境・環境・社会の三者間のズレ

すべてのフィールドに共通する特徴として、冷戦終焉前後でのボーダーの可視化(境界化)が起きており、境域の人びとも多孔性を利用した見えないボーダーよりも可視化されたボーダーを利用するように生活戦略が変わってきていることが指摘された。他方で、自然的境界に沿って引かれたナショナルボーダー(国境)を越境する形で社会的および政治的活動が行われるがゆえに透過性の高いボーダーになりがちな地域がある一方で、自然(環境)ボーダー、社会ボーダーとナショナルボーダーをすべて一致させようとするウェストファリア的なボーダーもあり、ボーダーの引き方および運用に関する性質のパターンを理論的に整理する必要があること、さらには、国家や大国の影響をすり抜けるような境域社会での生活戦略が存在する一方で、大国の行為による境域への影響は避けて通れない側面もあり、マルチスケールな主体による境域社会への影響をどう捉えるかが今後の課題になることが確認された。

(2) 日本国内の行政境域における国境・環境・社会の三者間の関係

新型コロナウイルス感染拡大と海外渡航禁止によってユーラシア各地での現地調査を行うことができない状態が続いたため、国家間のいわゆる「国境」の分析を一旦離れ、日本国内の都道府県境および市町村境を対象に、行政的境界(border)とそれを取り巻く境域(borderland)、自然環

境や地理的な側面から見た境界、および人やモノの移動、交流に関する社会的境界の三者関係について現地調査を行った。具体的には、岐阜県中津川市および長野県南木曾町の県境地域において、役場や市民等、現地ステークホルダーへの聞き取り調査を行った。その結果、三者の境界(border)は概ね一致しており、その背景として環境・地理的要因から県境が引かれ、それによって社会的ボーダーが規定されていることが推測された。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計28件（うち査読付論文 7件 / うち国際共著 3件 / うちオープンアクセス 13件）

1. 著者名 地田徹朗	4. 巻 8
2. 論文標題 ロシア=ウクライナ戦争とカザフスタン ロシアのウクライナ侵攻には反対も、しかし…	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 Artes MUNDI	6. 最初と最後の頁 77-86
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 花松泰倫	4. 巻
2. 論文標題 対馬：国境離島の動態	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 山崎孝史編『「政治」を地理学する－政治地理学の方法論』ナカニシヤ出版	6. 最初と最後の頁 205-216
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 花松泰倫	4. 巻
2. 論文標題 国境・ボーダーとは何か	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 平井一臣・土肥勳治編（共著）『つながる政治学：12の問いから考える【改訂版】』法律文化社	6. 最初と最後の頁 139-159
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 地田徹朗	4. 巻 7
2. 論文標題 個人主義時代の地域創生	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Artes MUNDI	6. 最初と最後の頁 102-110
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Yasunori Hanamatsu, Takahiro Fujiwara, Nariaki Onda, Tatsuro Sato, Tomomi Yamashita, Fumihiko Yokota	4. 巻 -
2. 論文標題 How Can We Develop a Co-design, Co-production, and Co-delivery Process Toward a Sustainable Local Society? Comparative Study on Transdisciplinary Research Projects	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 T. Yahara ed., Decision Science for Future Earth, Springer	6. 最初と最後の頁 67-91
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1007/978-981-15-8632-3_2	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Yasunori Hanamatsu, Tomomi Yamashita, Shota Tokunaga	4. 巻 -
2. 論文標題 Sustainable Community Co-development Through Collaboration of Science and Society: Comparison of Success and Failure Cases on Tsushima Island	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 T. Yahara ed., Decision Science for Future Earth, Springer	6. 最初と最後の頁 133-166
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1007/978-981-15-8632-3_6	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 花松泰倫	4. 巻 103
2. 論文標題 多層的ボーダーに生きる苦悩と光 中露アムール国境への旅を通して	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 京都大学東南アジア地域研究研究所 CIRAS Discussion Paper	6. 最初と最後の頁 43-54
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 地田徹朗	4. 巻 20(1)
2. 論文標題 全面的集団化前夜のカザフ人牧畜民 (1928年) : 『パイ』の排除政策と牧畜民社会	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 地域研究	6. 最初と最後の頁 13-36
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 地田徹朗	4. 巻 210
2. 論文標題 ベレストロイカと環境問題：『アラル海問題』をめぐるポリティクス	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 国際政治	6. 最初と最後の頁 33-48
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 地田徹朗	4. 巻 61(3)
2. 論文標題 環境と地理からみる中央アジア地域研究のあり方	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 アジア経済	6. 最初と最後の頁 81-88
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 地田徹朗、タルガルバイ・コヌスバエフ、マルグラン・イクラソフ	4. 巻 2
2. 論文標題 小アラル海南岸でのラクダ飼養の特徴について：2020年2月、カザフスタン出張報告	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 今村薫編著『遊牧と定住化』（中央アジア牧畜社会研究叢書2）	6. 最初と最後の頁 19-27
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 地田徹朗	4. 巻 103
2. 論文標題 中央アジア・アラル海をめぐる境界の変容とスケールの政治	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 京都大学東南アジア地域研究研究所 CIRAS Discussion Paper	6. 最初と最後の頁 5-20
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 浅田晴久	4. 巻 103
2. 論文標題 インド北東地方のボーダーと辺境の変容 アッサム・ブータン国境を中心に	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 京都大学東南アジア地域研究研究所 CIRAS Discussion Paper	6. 最初と最後の頁 21-34
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 地田徹朗	4. 巻 23
2. 論文標題 環境破壊の歴史と今を追う：中央アジア・アラル海地域の社会変容と持続可能性	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Field+	6. 最初と最後の頁 27-29
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 地田徹朗	4. 巻 -
2. 論文標題 カザフスタン・小アラル海地域での牧畜の特性に関する萌芽的調査：遠隔村・アクバストゥ村を中心に	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 今村薫編『牧畜社会の動態』（中央アジア牧畜社会研究叢書1）名古屋学院大学総合研究所	6. 最初と最後の頁 49-62
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 浅田晴久	4. 巻 14(2)
2. 論文標題 インパールの過去・現在・未来 南アジアと東南アジアのはざままで	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 E-journal GEO	6. 最初と最後の頁 296-303
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.4157/ejgeo.14.296	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 N. V. Aladin, T. Chida, Yu. S. Chuikov, Z. K. Ermakhanov, Y. Kawabata, J. Kubota, P. Micklin, I. S. Plotnikov, A. O. Smurov and V. F. Zaitsev	4. 巻 36(6)
2. 論文標題 The history and future of the biological resources of the Caspian and the Aral Seas	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Journal of Oceanology and Limnology	6. 最初と最後の頁 2061-2084
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 地田徹朗	4. 巻 2008/2
2. 論文標題 中央アジア・アラル海地域の環境・社会・経済：持続可能な開発に向けて	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 地理・地図資料	6. 最初と最後の頁 8-11
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 地田徹朗	4. 巻 24
2. 論文標題 カザフ人にとっての漁業と牧畜：アラル海災害前後での生業の変遷を中心に	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 生態人類学会ニュースレター	6. 最初と最後の頁 67-75
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 地田徹朗	4. 巻 1031
2. 論文標題 カザフスタンにおける『近代化』と強制農業集団化	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 ロシア・ユーラシアの経済と社会	6. 最初と最後の頁 31-52
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 地田徹朗	4. 巻 4
2. 論文標題 【テーマ書評】乾燥地・半乾燥地での水：中央アジアを知るための五冊	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Artes Mundi	6. 最初と最後の頁 160-165
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 地田徹朗	4. 巻 60(1)
2. 論文標題 【紹介】高倉浩樹編『寒冷アジアの文化生態史』古今書院 2018年 viii+120ページ	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 アジア経済	6. 最初と最後の頁 101-102
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Nityananda Deka, Haruhisa Asada, Abani Kumar Bhagabati	4. 巻 40
2. 論文標題 Landholding structure and rural land use pattern in the Brahmaputra floodplain: A comparative study of villages from upper and lower Assam	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Transactions: Journal of the Institute of Indian Geographers	6. 最初と最後の頁 71-81
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Haruhisa Asada	4. 巻 11
2. 論文標題 Rice-based cropping system of different ethnic groups across the Brahmaputra floodplain in Assam, India	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 Journal of Agroforestry and Environment	6. 最初と最後の頁 67-70
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Haruhisa Asada, Daisaku Sakai, Jun Matsumoto and Wataru Takeuchi	4. 巻 11
2. 論文標題 Hydrological environment and Boro rice cultivation in Bangladesh and Assam	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 Journal of Agroforestry and Environment	6. 最初と最後の頁 25-29
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Fumie Murata, Toru Terao, Hatsuki Fujinami, Taiichi Hayashi, Haruhisa Asada, Jun Matsumoto, Hiambok Jones Syiemlieh	4. 巻 30
2. 論文標題 Dominant Synoptic Disturbance in the Extreme Rainfall at Cherrapunji, Northeast India, Based on 104 Years of Rainfall Data (1902-2005)	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 Journal of Climate	6. 最初と最後の頁 8237-8251
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1175/JCLI-D-16-0435.1	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 浅田晴久	4. 巻 32
2. 論文標題 講演録 バングラデシュ農村部におけるリプロダクティブ・ヘルス改善のためのNGOとの共同研究－アンケート調査の分析からみる農村女性の実態－	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 女性学評論	6. 最初と最後の頁 199-217
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 浅田晴久	4. 巻 8
2. 論文標題 書評 R. B. Singh and Pawel Prokop著 『Environmental Geography of South Asia: Contributions toward a Future Earth Initiative』 Springer, 2016	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 広島大学現代インド研究	6. 最初と最後の頁 57-60
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

〔学会発表〕 計38件（うち招待講演 8件 / うち国際学会 15件）

1. 発表者名 花松泰倫
2. 発表標題 多層的ボーダーを生きる苦悩と光：中露アムール国境と対馬釜山
3. 学会等名 ワークショップ「ユーラシア国境域の自然環境と境域社会の生活戦略」
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Tetsuro CHIDA
2. 発表標題 The Aral Sea and the Politics of Scales: Interactions and Cooperation
3. 学会等名 East-West Dialogue Conference, Institute of Oriental Studies, Academy of Sciences of the Republic of Kazakhstan (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 地田徹朗
2. 発表標題 中央アジア・アラル海をめぐる境界の変容とスケールの政治
3. 学会等名 ワークショップ「ユーラシア国境域の自然環境と境域社会の生活戦略」
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 浅田晴久
2. 発表標題 インド北東地方のボーダーと辺境の変容：アッサム・ブータン国境を中心に
3. 学会等名 ワークショップ「ユーラシア国境域の自然環境と境域社会の生活戦略」
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Jun Matsumoto and Haruhisa Asada
2. 発表標題 Highland-lowland interaction in the Ganges-Brahmaputra-Meghna River Basin: Floods and rice production
3. 学会等名 IGU India International Conference on Global to Local Sustainability & Future Earth (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Jun Matsumoto, Haruhisa Asada, Azusa Fukushima, and Hironari Kanamori
2. 発表標題 Rainfall variations, floods and their effects on rice production in the Ganges-Brahmaputra River Basin
3. 学会等名 International Webinar on Climate Change, Geo-hazards and Sustainable Development (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Haruhisa Asada
2. 発表標題 Geography Education in the era of Covid-19: A case in Japan
3. 学会等名 International Web-Conference on COVID-19 Pandemic from the Eyes of Geography: Global, National and Regional Perspectives (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Haruhisa Asada
2. 発表標題 Recent trends of Geographic study and research in Japan
3. 学会等名 International Webinar on Recent Trends in Geographic Studies and Research (招待講演)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Haruhisa Asada
2. 発表標題 Impact of Covid-19 pandemic on socio-economic activities in Japan
3. 学会等名 International Webinar on Impact of Covid-19 pandemic on socio-economic activities with special reference to Japan and India (招待講演)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 花松泰倫
2. 発表標題 対馬・釜山ポーターツーリズムと境界地域社会の変容
3. 学会等名 東アジア学会2019年度第29回大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 花松泰倫
2. 発表標題 ポータースタディーズから見た対馬の韓国人観光
3. 学会等名 経済地理学会西南支部・関西支部合同特別例会(招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Tetsuro CHIDA, Talgarbay KONYSBAEV
2. 発表標題 The ecological crisis and resilience: the livestock robustness in Kazakhstan part of the Aral Sea region
3. 学会等名 The 16th Biennial Conference of European Society for Central Asian Studies (ESCAS) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 地田徹朗
2. 発表標題 環境と地理からみる中央アジア地域研究のあり方
3. 学会等名 日本中央アジア学会2019年度年次大会（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Haruhisa Asada
2. 発表標題 Transformation of Agriculture and Rural Society in Muktapur village
3. 学会等名 Workshop on Rural Livelihood and Environmental Changes（国際学会）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Yasunori Hanamatsu
2. 発表標題 Co-producing sustainable local community in collaboration between science and society: the case of Tsushima island
3. 学会等名 World Social Science Forum 2018（国際学会）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Tetsuro Chida
2. 発表標題 Desertification, Climate Change and Border: The Aral Sea Borderlands before/after the Collapse of USSR
3. 学会等名 World Social Science Forum 2018（国際学会）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 地田徹朗、ニコライ・アラディン、タルガルバイ・コヌスパエフ
2. 発表標題 『復興』から『持続可能性』フェーズへ：カザフスタン領小アラル海地域の社会・経済の現状と将来
3. 学会等名 日本沙漠学会第29回学術大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Haruhisa Asada
2. 発表標題 Ecological structure of the multi ethnic society in Assam
3. 学会等名 Workshop on Socioeconomic/Hydroclimatological Perspectives of Future Asian Monsoon
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 浅田晴久
2. 発表標題 アッサム州における農業離れと耕地利用の変化 - カースト・ヒンドゥー教の村落の事例より
3. 学会等名 日本南アジア学会第31回全国大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Haruhisa Asada
2. 発表標題 Living spaces of ethnic groups and their relationship with ecological environment in Assam, India
3. 学会等名 XVIII World Economic History Conference (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 浅田晴久・松田正彦・安藤和雄・内田晴夫・柳澤雅之・小林知・小坂康之
2. 発表標題 モンsoonアジアにおける近年の稲作技術展開
3. 学会等名 日本地理学会2018年度秋季学術大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 柳澤雅之
2. 発表標題 ベトナム農村の暮らしと出稼ぎ
3. 学会等名 国際会議『海域アジアの暮らしと移動』（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Yasunori Hanamatsu
2. 発表標題 Border tourism and its impact on a changing borderland society: Cross-border tourism between Tsushima, Japan and Busan, Korea
3. 学会等名 Association for Borderlands Studies, 59th Annual Conference (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 花松泰倫
2. 発表標題 対馬・釜山ボーダーツーリズムの展開と境域社会の変容過程（パネルセッション「砦かゲートウェイか？ 日本の島嶼から考える」
3. 学会等名 日本国際文化学会第16回全国大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 花松泰倫
2. 発表標題 持続可能な地域コミュニティ創出における「科学と社会との協働」：長崎県対馬市の事例を中心に
3. 学会等名 科学技術社会論学会第16回年次研究大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 (Tetsuro CHIDA)
2. 発表標題 -
3. 学会等名 (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Tetsuro CHIDA
2. 発表標題 (ラウンドテーブル)The Future of Central Asian Studies
3. 学会等名 The Tenth International Conference of Asia Scholars (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 地田徹朗
2. 発表標題 カザフ人にとっての漁業と牧畜: アラル海災害前後での生業の変遷を中心に
3. 学会等名 生態人類学会第23回研究大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 浅田晴久
2. 発表標題 バングラデシュ農村部におけるリプロダクティブ・ヘルス改善のためのNGOとの共同研究－アンケート調査の分析からみる農村女性の実態
3. 学会等名 神戸女学院大学女性学インスティテュート主催第1回女性学研究会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 浅田晴久
2. 発表標題 インド・アッサム州の自然と社会－南アジアと東南アジアのはざままで－
3. 学会等名 第13回ジオコミュニケーションセミナー
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 浅田晴久
2. 発表標題 南アジア・東南アジアの境界地域における風土
3. 学会等名 日本地理学会モンスーンアジアの風土研究グループ例会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Haruhisa Asada
2. 発表標題 Rainfall variation and rice cropping technology in Assam, India
3. 学会等名 XXXII Annual IAPT Convention 2017
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 浅田晴久
2. 発表標題 インド・アッサム州の離農の現状
3. 学会等名 国際研究集会「アジアにおけるグローバル問題群を考えるー南アジア諸国と日本の比較を中心にー」
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Haruhisa Asada
2. 発表標題 Farm abandonment in Japan and Assam
3. 学会等名 The 1st International Cultural Symposium on North East India and Japan
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 浅田晴久
2. 発表標題 インド・アッサム州の生態環境と多民族社会の人口分布
3. 学会等名 日本人口学会関西地域部会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 渡邊三津子・遠藤仁・小磯学
2. 発表標題 インド北東部における焼畑農業の現代における実践 ナガランド州モコクチュン県の事例から
3. 学会等名 日本地理学会2018年春季学術大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Yanagisawa Masayuki
2. 発表標題 Between rural and urban: A socio-economic history of the Red River Delta village
3. 学会等名 30 years after Doi Moi policy in Vietnam (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Yanagisawa Masayuki
2. 発表標題 Changes in Forest Use around the Sebangau National Park in Central Kalimantan, Indonesia
3. 学会等名 Forest Ecological Resources Security for Next Generation: Development and Routine Utilization of Forest Ecological Resources and their Domestication (国際学会)
4. 発表年 2017年

〔図書〕 計15件

1. 著者名 シンジルト、地田徹朗編著	4. 発行年 2021年
2. 出版社 名古屋外国語大学出版会	5. 総ページ数 251
3. 書名 牧畜を人文学する	

1. 著者名 地田徹朗、柳澤雅之編	4. 発行年 2021年
2. 出版社 京都大学東南アジア地域研究研究所	5. 総ページ数 55
3. 書名 ユーラシア国境域の自然環境と境域社会の生活戦略	

1. 著者名 【共著】『現代地政学事典』編集委員会編（花松・地田・浅田）	4. 発行年 2019年
2. 出版社 丸善出版	5. 総ページ数 888
3. 書名 現代地政学事典	

1. 著者名 【共著】沼野充義ほか編（地田）	4. 発行年 2019年
2. 出版社 丸善出版	5. 総ページ数 890
3. 書名 ロシア文化事典	

1. 著者名 西谷地晴美編（浅田）	4. 発行年 2020年
2. 出版社 かもがわ出版	5. 総ページ数 180
3. 書名 気候危機と人文学 人々の未来のために	

1. 著者名 Satoshi Yokoyama, Jun Matsumoto and Hitoshi Araki eds.（浅田）	4. 発行年 2020年
2. 出版社 Springer Nature Singapore Pvt Ltd.	5. 総ページ数 172
3. 書名 Nature, Culture, and Food in Monsoon Asia	

1. 著者名 Nityananda Deka, Haruhisa Asada and Yusuke Yamane	4. 発行年 2020年
2. 出版社 Nityananda Deka, Haruhisa Asada and Yusuke Yamane	5. 総ページ数 63
3. 書名 Rural Livelihoods and Environmental Changes in Muktapur Village: People's Voice	

1. 著者名 平井一臣、土肥勲嗣、宇野文重、池上大祐、渡邊智明、山田良介、花松泰倫、藤村一郎、篠原 新、原 清一、遠山 隆淑	4. 発行年 2019年
2. 出版社 法律文化社	5. 総ページ数 250
3. 書名 つながる政治学: 12の問いから考える	

1. 著者名 宇山智彦、東島雅昌、湯浅剛、地田徹朗、樋渡雅人、武田友加、下社学、吉田世津子、藤本透子、河野明日香、菊田悠	4. 発行年 2018年
2. 出版社 日本評論社	5. 総ページ数 304
3. 書名 現代中央アジア 政治・経済・社会	

1. 著者名 帯谷知可、地田徹朗ほか30名	4. 発行年 2018年
2. 出版社 明石書店	5. 総ページ数 404
3. 書名 ウズベキスタンを知るための60章	

1. 著者名 柳澤雅之	4. 発行年 2019年
2. 出版社 京都大学学術出版会	5. 総ページ数 72
3. 書名 情報とフィールド科学 6 景観から風土と文化を読み解く	

1. 著者名 岩下 明裕、花松 泰倫、高田 喜博、島田 龍、古川 浩司、山上 博信、斉藤 マサヨシ	4. 発行年 2017年
2. 出版社 北海道大学出版会	5. 総ページ数 270
3. 書名 ポーターツーリズム 観光で地域をつくる	

1. 著者名 環境経済・政策学会編、花松 泰倫 ほか	4. 発行年 2018年
2. 出版社 環境経済・政策学事典	5. 総ページ数 814
3. 書名 丸善出版	

1. 著者名 インド文化事典編集委員会編、浅田 晴久ほか	4. 発行年 2018年
2. 出版社 丸善出版	5. 総ページ数 806
3. 書名 インド文化事典	

1. 著者名 宇山 智彦、中嶋 毅、松井 康浩、池田 嘉郎、浅岡 善治、松戸 清裕、半谷 史郎、高尾 千津子、小野 容照、吉村 貴之、長縄 宣博、地田 徹朗、塩川 伸明、小森 宏美、高倉 浩樹	4. 発行年 2017年
2. 出版社 岩波書店	5. 総ページ数 316
3. 書名 越境する革命と民族 : ロシア革命とソ連の世紀 5	

〔産業財産権〕

〔その他〕

乾燥地と国境 (特定非営利法人国境地域研究センター・ホームページ掲載エッセイ) http://borderlands.or.jp/essay/essay035_T.Chida.pdf
--

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	地田 徹朗 (Chida Tetsuro) (10612012)	名古屋外国語大学・世界共生学部・准教授 (33925)	
研究分担者	浅田 晴久 (Asada Haruhisa) (20713051)	奈良女子大学・人文科学系・准教授 (14602)	
研究分担者	柳澤 雅之 (Yanagisawa Masayuki) (80314269)	京都大学・東南アジア地域研究研究所・准教授 (14301)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究 分 担 者	大西 健夫 (Onishi Takeo) (70391638)	岐阜大学・応用生物科学部・教授 (13701)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計2件

国際研究集会 Workshop on Rural Livelihood and Environmental Changes	開催年 2019年～2019年
国際研究集会 国際研究集会「アジアにおけるグローバル問題群を考える－南アジア諸国と日本の比較を 中心に－」	開催年 2017年～2017年

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関